

2019年度特別支援教育に関する実践研究充実事業
 (新学習指導要領に向けた実践研究)
 成果報告書 (概要)

受託団体名
国立大学法人 熊本大学

1 指定校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名 (ふりがなを付すこと)
国立大学法人 熊本大学	特別支援学校	知的障がい	熊本大学教育学部附属特別支援学校 (くまもとだいがくきょういくがくぶふぞくとくべつしえんがっこう)

2. 事業の実績

(1) 事業の実施日程

実施時期	実施内容	評価事項
平成 31 年 4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究部会 (第三年次研究実践の方向性及び内容等の検討) ・ 拡大研究部会 (教務部との教育課程改善に係る取組の検討) ・ 研究プロジェクト会議 (第三年次研究実践に係る内容の意見交換) ・ 研究部会 (研究プロジェクト会議を受けての検討・調整) ・ 授業づくりミーティング (毎月開催) 実施のための体制整備 ・ 全体研究会 (講師招聘研修会 : エビデンスに基づいた実践研究の在り方) ・ 全体研究会 (第三年次研究実践の内容と役割分担の共有) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ S 授業研による日々の授業の指導評価 (通年) ・ 三年次研究実践に関する職員アンケートの評価 ・ 各学部における現状の課題等の分析
令和元年 5 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学部研究会 (研究対象授業の決定及び新学習指導要領の教育内容を踏まえた授業計画等の作成) ・ 授業づくりミーティング開始 (通年) ・ 研究部会 (研究内容の具体的な進め方の検討) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ M 授業研による単元内容及び学習の評価 (通年)
令和元年 6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業研究実践 (~ 1 月) 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・全体研究会（講師招聘研修会：PATHの考え方に基づく支援者ミーティング） ・学部研究会（研究実践の計画立案） ・一般企業を対象とした資質能力に関するアンケート結果を受けての検討、協議。福祉機関等との協働による取組経過報告、研究実践等に関する意見交換等（第1回就職支援ネットワーク会議） 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職支援ネットワーク会議におけるアンケート内容の評価
令和元年7月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究プロジェクト会議（熊大式マネジメントシステムの進捗状況確認・検討） ・学部研究会（授業計画・評価・改善） 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究プロジェクトチームによる熊大式マネジメントシステムの評価
令和元年8月	<ul style="list-style-type: none"> ・セミナー開催（卒業後の働く生活を描くセミナー2019） ・研究部会（各学部の研究実践経過確認） ・学部研究会（授業計画・評価・改善） ・全体研究会（共同研究者との各実践の共有と協議：第1回共同研究会） 	<ul style="list-style-type: none"> ・セミナーアンケートにおける内容評価及び希望調査 ・全体研究会における他学部の実践等の評価
令和元年9月	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程検討委員会（教育課程） ・学部研究会（授業計画・評価・改善） ・研究授業及び授業研究会（中学部 道徳） ・研究授業及び授業研究会（高等部 職業） ・高等部家庭科を対象とした、福祉・労働関係者との共同した研究授業・授業研究会（第2回就職支援ネットワーク会議） ・研究授業及び授業研究会（高等部 自立活動） 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程検討チームによる教育課程の評価 ・授業づくりに関連するツールのアンケート調査 ・研究授業及び研究授業による各実践の評価 ・就職支援ネットワーク会議における授業内容の評価
令和元年10月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業及び授業研究会（養護教諭 保健体育） ・研究授業及び授業研究会（小学部 国語） ・就職支援コーディネーターによる就労支援及び情報収集 ・研究授業及び授業研究会（中学部 数学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部による教育課程の評価 ・就労アセスメントシートによるジョブマッチング評価
令和元年11月	<ul style="list-style-type: none"> ・学部研究会（授業計画・評価・改善） ・就職支援コーディネーターによる就労支援及び情報収集 ・研究プロジェクト会議（三年次の研究経過報告・意見交換） ・拡大研究部会（研究のまとめの検討） 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究会における実践の評価 ・就職支援ネットワーク会議におけるアンケート回答を基にした教育課程の評価

		<ul style="list-style-type: none"> ・就労アセスメントシートによるジョブマッチング評価
令和元年 12 月	<ul style="list-style-type: none"> ・全体研究会（三年次の研究経過報告・共有） ・学部研究会（授業計画・評価・改善） ・就職支援コーディネーターによる就労支援及び情報収集 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究会における実践の評価 ・就労アセスメントシートによるジョブマッチング評価
令和 2 年 1 月	<ul style="list-style-type: none"> ・共同研究者と実践研究の意見交換（第 2 回共同研究会） ・各実践班の成果等の集約 ・学部研究会（実践のまとめ） ・全体研究会（各実践班の成果等の報告・共有） ・実践報告書等執筆 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部実践グループにおける実践報告内容等の評価 ・全体研究にかかわる実践報告内容等の評価
令和 2 年 2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・第33回研究発表会（研究実践の最終報告及び特別支援教育に関する最新の情報提供） ・教育課程検討委員会（教育課程） ・研究部会（研究発表会の反省及び次年度への研究の方向性検討） 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究発表会における参加者との意見交換やアンケート等による研究実践の評価 ・教育課程検討チームによる教育課程実施の評価 ・研究部による研究の評価
令和 2 年 3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究プロジェクト会議（研究発表会の反省及び次年度への研究の方向性検討） ・全体研究会（次年度の研究の方向性提案・意見交換） ・教育課程検討会（教育課程） ・学部研究会（研究対象授業等の選定） ・全体研究会（次年度への志向） 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究プロジェクトチームによる研究の評価 ・全職員による教育課程実施の評価及び研究経過の評価

(2) 研究課題

社会に開かれた教育課程の実現を目指し、計画・評価等の体制面や授業の充実、地域社会との協働した取組等を相互に関連付けた熊大式マネジメントシステムを構築する。

(3) 研究の概要

本年度は、これまで取り組んできた3つの柱である「カリキュラムの充実」「主体的・対話的で深い学び視点に立った授業改善・開発」「地域社会との連携・協働」を相互に関連付けた熊大式マネジメントシステムにおいて、教育課程の検討や改善が機能しているかという実践検証を行うと共に、

新学習指導要領の理念である社会に開かれた教育課程の実現を目指す。

取組 1 カリキュラムの充実

教育課程のP D C Aサイクルの時期の見直しを図り、年間（Long）単元（Middle）授業（Short）の3つの段階における計画と評価の体制構築において、児童生徒の学びの評価や指導の評価を教育課程の改善につなげる。

取組 2 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善及び開発

児童生徒の障害の状態等に留意しつつ、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、日々の授業を評価し、改善を図っていく。また、評価の観点や授業づくりにおけるポイントについて明らかにすることで、研究の成果を普及していく。

取組 3 地域社会との連携・協働

教育・労働・福祉等と共同して取り組んだ、一般企業100社に対する「在学中に身に付けてほしい力」アンケートや、本校卒業生対象に実施しているフォローアップミーティングの結果等から、意見交換や協議を行い、教育課程や授業等の改善に生かしていく。また、地域の人的・物的資源等と協働した授業実践による、児童生徒の学びの深まりをねらい、その教育効果について評価し、カリキュラムの反映につなげる。

（4）研究の成果

取組 1 カリキュラムの充実

熊大式マネジメントシステムの体制面において、「教育課程の評価・改善の時期の見直し」と、「年間計画を1単位時間の授業に反映させる体制整備」に取り組み、年間計画から一つの授業を構想するまでに至るプロセスを明らかにすると共に、各実施後の評価が効果的に教育課程の改善につながるシステムを構築することができた。

取組 2 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善及び開発

熊本大学教育学部の教員等と共同研究を行い、授業の改善や評価の在り方など、様々な視点で授業づくりの質を高めることができた。そして、児童生徒の学びの深まりや、資質・能力の育成につなげることができた。

取組 3 地域社会との連携・協働

附特就職支援ネットワーク会議では、一般企業への「在学中に身に付けてほしい力」アンケート結果や卒業生の課題等を協議し、在学中における生活スキルに関する授業開発や、卒業後の生活について学ぶ研修等の開催、地域の支援機関と連携した生涯学習の取組を行うことができた。

地域資源の活用及び協働した授業づくりでは、地域との協働を視野に入れて取り組み、協働した授業の教育効果について評価し、カリキュラム・マネジメントへの反映につなげることができた。

また、小学部から高等部までの12年間の学びを継ぎ目なくつなぐ学部連携班を構成し、各教科の指導内容確認表の作成や、家庭科の「12年間の学びのつながりモデル」、として指導内容をまとめ、次年度の教育課程編成と各学部の学習内容の検討につなげることができた。

（5）課題と今後の方策

取組1 カリキュラムの充実

各学部ともに目標設定や評価の時間の確保等に課題が残った。特に、日々の授業評価のシステムに課題が残った。授業評価による学習指導の評価や授業改善への効果について、本校教員にアンケートをとったところ、92%の教員から「効果がある」と回答を得た。一方で、授業評価の運用については50%の教員が「課題がある」と答えた。これは、運営面において、日々の業務に追われ、計画通りの授業評価を実施できなかったことがあったためと考えられた。学校及び各学部の月計画を調整するキーパーソンや、学校全体のタイム・マネジメントも含めた運用の見直しを行うことで解決が図られると考える。

取組2 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善及び開発

授業づくりは充実してきているが、各学部の取組や情報の共有化、教科の専門性等に関して課題が残った。今年度から立ち上がった学部連携班を軸に、今後も学部間のつながりや、12年間の系統性ある学習内容を検討・整理していくことで、それらの課題を解決していけると考える。また、単元の目標や評価基準等を児童生徒の実態に応じて具体的に検討していくことで、より個に応じた手立ての工夫が図られると考える。

取組3 地域社会との連携・協働

本研究で明らかとなった卒業後の課題等を再度整理し、学校教育目標や教育課程、各教科等の年間指導計画、授業づくり等に丁寧に反映させていくことで、教育活動の質をさらに向上させ、学習効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントが発展・深化していくものと考ええる。